

この度はこのような機会を頂き、関係者の方々に感謝申し上げます。私も受験の際には皆様の合格者体験記を参考にさせていただきましたので、この体験記が今後受験される皆様のお役に立つことが出来ましたら幸いです。

私は学生時代の卒業研究の際お世話になった研究室で初めてフローサイトメーターに触れ、現在は病院で造血器腫瘍解析やリンパ球サブセット、CD34 絶対数測定などを行っておりますが、解析に担当者の力量や経験が大きく影響することを感じながら業務を行う中でフローサイトメトリーというものを系統立てて学んでみたいという気持ちが芽生えました。受験の準備を始めたもののちょうどコロナ禍に見舞われ、諸事情から一度は受験を断念しましたが、書棚の「スタンダードフローサイトメトリー第2版」を見て不完全燃焼のような思いがぬぐえず、この度の挑戦に至りました。

受験準備は春頃から始め、まずは「スタンダードフローサイトメトリー第2版」を読み込むこと、「認定サイトメトリー技術者」筆記試験用到達目標」に回答できるようにすることに集中しました。他業務で夏はほぼ勉強できなかったため、10月から試験までは「スタンダードフローサイトメトリー第2版」を読み直すと同時に「Medical Technology 誌 Vol 32 チャレンジ認定試験」を解くこと、AIを用いて試験を模した4択問題を作問し解くこととその解答の根拠を調べることを繰り返しました。特にAIを用いた作問は、経験の無いDNA解析など自分にとって弱点となる分野の学習に役立ったように思います。この時期は読むことで得た知識を使い、定着させることを意識しました。教材としては各メーカーのホームページや資料の他、自施設に在籍する2年前の合格者から当時の講習会テキストを借りることができ、ポイントの整理に大変役立ちました。

当日は朝から長時間の講習会の後に試験を迎えますので、睡眠も含め体調を整えておくこと、季節柄会場の温度に合わせられるよう調節がしやすい服装で臨むのがよろしいかと思います。講習会では「スタンダードフローサイトメトリー第2版」ではあまり触れられていない分野や、試験の参考になる内容も多々ありましたので、聞き逃しの無いよう集中力が必要です。とはいえ各講師の先生方のお話がどれも興味深く、時間があっという間に過ぎたように感じました。

試験は問題数が多い印象でしたので、まずは確実に取れる問題を落とさぬよう一通り解き進め、迷う問題は後から時間をかけるように配分しました。試験中も複数の試験監督の方が見回っていらっしゃるので、疑問があれば悩むことに時間をかけずに質問されるのがよいと思います。

余談となりますが、東京会場での受験が終了し会場を後にする際に、エレベーターホールから見た夕暮れ時のビル群の風景が大変美しかったことが印象に残っています。

今回の受験により、日々の業務と学習で積み重ねてきた知識の整理と、当初の目的であった「フローサイトメトリーを系統立てて学ぶ」ということができたように感じます。この受験で得た学びを無駄にすることの無い様、今後も研鑽に努めてまいります。